

ステークホルダーエンゲージメント

積水化学グループでは、「お客様」「株主」「従業員」「取引先」「地域社会・地球環境」の5つのステークホルダーとの信頼関係を構築するためには、企業価値向上に向けた建設的な対話が重要だと考えています。ステークホルダーを企業価値向上に向けたパートナーと位置付け、建設的な対話を通じて、その期待や要請を把握し、社会全体の課題をともに解決していくことが、積水化学グループにとっての大きな事業機会につながります。ステークホルダーと共存共栄の関係をつくり、持続的な成長をさらに進めていきます。

ステークホルダーとの建設的な対話の促進

ステークホルダーの皆様からいただいたさまざまな評価やご意見は、社長を委員長とする取締役メンバーなどで構成されたCSR委員会(2020年度よりサステナビリティ委員会に改称)で報告し、適切に企業活動に反映させるよう努めています。

2019年度は住宅販売会社の経営幹部層がお客様のご意見を直接お伺いする「CAT(Customer And Top)ミーティング」(189回開催、1,413人参加)、毎年参加しているエコプロデのお客様とのコミュニケーション、投資家や調査機関との面談、従業員が経営層と直接対話をする「トップと語ろう」の開催などを通じて、評価や意見をいただきました。

ステークホルダー価値配分(2019年度)

(百万円)

株主	配当金	22,400	地域社会	寄付	158
取引先	売上原価、販売費・一般管理費(人件費除く)	829,809	地球環境	環境保全コスト	17,850
従業員	労務費、販売費・一般管理費のうち給料および手当、賞与引当金、退職給付引当金	211,675	政府・行政	法人税、住民税、事業税	22,619
			債権者	営業外費用のうち支払利息	695

ステークホルダーへの価値配分

積水化学グループでは、GRIスタンダードなどを参考にして、財務諸表に基づきステークホルダー別に、その配分状況を算出しています。ステークホルダーとのエンゲージメントによってもたらされる事業および社会的価値を定量化・「見える化」して把握することで、CSRを加速させていきます。

従業員との対話

当社グループでは、会社を取り巻く問題点や仕事上の課題を解決していくためにも、経営層と従業員の対話が不可欠だと考えており、2002年度より、従業員が経営層と直接対話をする機会を設けています。経営トップと従業員の直接対話の場として2019年度は、13のグループ会社があるタイの従業員を対象に「トップと語ろう」を開催し、中期経営計画(2017-2019年度)の「融合-Fusion-」をテーマに、従業員間で活発な意見交換が行われました。その中から現地グループ会社間での協業による生産性向上策や、各社の経営資源を融合させた新たなビジネスモデルなど、現地従業員からのさまざまな提言・提案をもとに、社長をはじめとする参加役員が直接対話を実施。当日の対話内容は各カンパニーに共有し、実現に向けて施策が進んでいます。今後は欧州・北米などのエリアでも実施し、世界中のグループ従業員が経営層と直接対話できる機会を増やすよう努めていきます。



タイで開催された「トップと語ろう」

株主・投資家の皆様との対話の推進

当社グループでは、適時、適切かつ積極的な情報開示が重要であると考えており、積水化学のWebサイトでは、「企業情報開示理念」のもと、具体的な開示内容や開示体制などに関して「企業情報開示規則」を策定し、社内の情報開示体制を強化しています。またフェアディスクロージャーに十分配慮し、決算情報・説明会資料については、Webサイト上に和英同時公開を行うほか、その説明会の模様についての配信や質疑応答の掲載を行っています。

また当社グループの事業領域が多岐にわたることからグループ全体の事業内容やCSRの取り組みについて、十分かつ正しく理解してもらうためには、個別に丁寧な説明をすることが重要だと考え、四半期ごとの経営陣による決算説明会のほか、機関投資家・セルサイドアナリストの方々との面談の実施、個人投資家様向け説明会、株主の皆様を対象とした経営説明会の開催などを積極的に行っています。

そして「投資家と経営層の積極的なエンゲージメント」を重要課題の一つとして掲げ、株主・投資家の皆様と建設的な対話を行い、そのフィードバックを経営に活かす努力をしています。2019年11月にIRに積極的な企業として評価いただき、一般社団法人日本IR協議会の「IR優良企業特別賞」を受賞いたしました。

これからも、資本市場の声に耳を傾け、企業価値向上や持続的成長のための取り組みを推進していきます。



経営計画オンライン説明会



IR優良企業特別賞(2019年11月受賞)